

びわこ文化ゾーンの活用によるにぎわいの創出

田平優太・屋地皓平・高嶋望都・高倉功（立命館大学・交通マネジメント工学研究室）

滋賀県の湖南に位置する大津・草津地域は京都府と近く、ベッドタウンとして住宅が建ち並ぶが、県内に集客力のある大都市があるとは言えず、都市間も離れているため車社会が定着し、地域交通の維持や充実が課題となっている。大津市と草津市の市境に位置するびわこ文化ゾーンは教育や医療・文化施設が立ち並んでいることから地域の中心となりうる機能を持つものの、地域交通の不十分さ等によりその機能を生かしきれていない現状がある。本提案では、アクセス面の問題を逆にとり、文化ゾーンに公共交通の拠点をすることで交通・文化の発信地としてにぎわいの創出を図る。

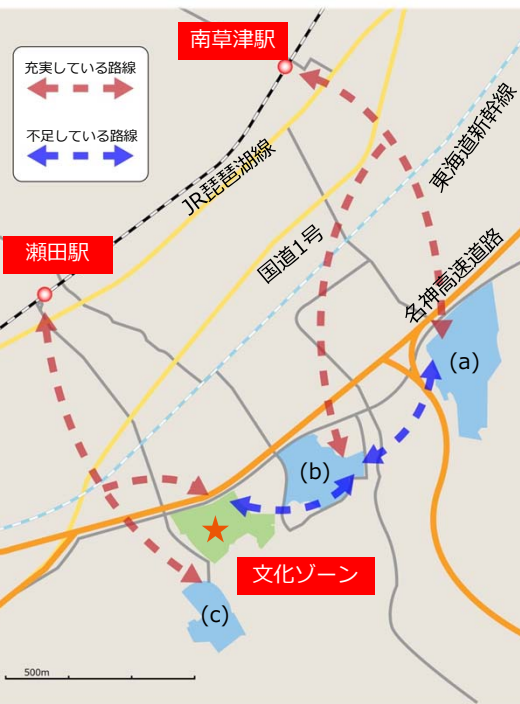
びわこ文化ゾーンの現状と課題

アクセス面

- ① 県立美術館の来場者の9割が自家用車
- ② 公共交通の乗車費が高価/複雑
- ③ 鉄道との乗り継ぎが不便（図1）
- ④ 道路上の案内標識の分かりづらさ（図2）
- ⑤ 複数のバス会社が混在しておりバス停がありわかりにくい（写真1）
- ⑥ 最寄りのバス停から施設へのアクセス



図1. 自家用車を用いてびわこ文化公園に来場した理由 ※資料1



機能面

- ① びわこ文化公園の認識度が低い
- ② 交流の場としての十分活用可能
- ③ 美術館が改築予定（びわこ文化公園の利用者のほとんどが美術館を目的に来園）
- ④ 施設内の案内標識が不適切（写真2）

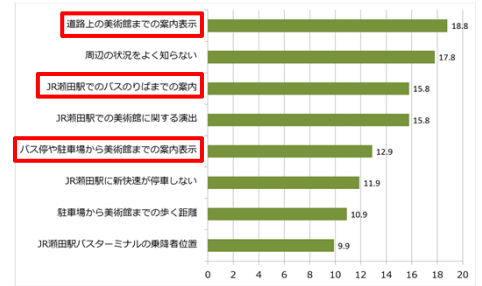


図2. びわこ文化公園までの道で改善されるべき箇所 ※資料1



写真1. びわこ文化公園前のバス停

文化ゾーン内の施設

- ★ びわこ文化公園
 - ・ 滋賀県立近代美術館
 - ・ 滋賀県立図書館
 - ・ 滋賀県埋蔵文化財センター
- (a) 立命館大学
- (b) 滋賀医科大学
- (c) 龍谷大学



写真2. 情報量が多すぎる案内標識

地域交通の課題

バスサービスの課題

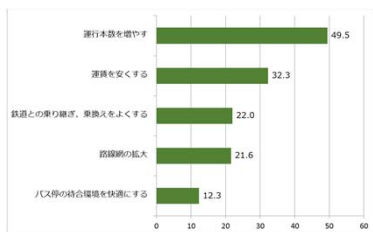


図. バスについて改善が必要な点 (N=1447, 複数回答) ※資料2

- ・ 運行本数、運賃、鉄道との連絡、路線網、待合環境に関する改善の要望が多い

大津・草津地域の高齢化

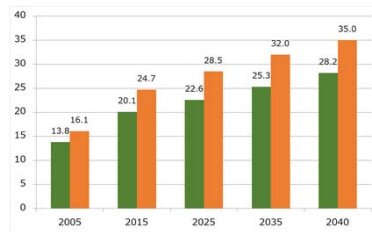


図. 老年人口割合の推移 ※資料3

- ・ バスを生活の足とする人の増加が予測される
- ・ コミュニティーバスなどによるフィーダー路線網の確保が今後の課題

ジョイントライナーの活用



- ・ 乗客数の多い路線では、連節バスによる大量輸送も可能になる

・ バス交通の効率化を促す結節点、また今まで以上に利用者のニーズに合った路線網および、料金体系の整備の必要性がある

・ 大津・草津地域ならではの話題性 → たくさんの方が大津・草津地域を訪れるための呼び水効果につながる

提案：大津・草津地域の公共交通を集約させるバスターミナルの設置

バス利用の促進

- 1 地域交通の利便性向上
- 2 持続可能な公共交通システムの設置
- 3 利用者の意識改革と話題性の確保



地域住民の利用が多い美術館や図書館・芝生広場を持つびわこ文化公園内にバスターミナルを設置する。縦方向に延びるバス路線を一点に集中させる事で横方向の路線の強化を図り、各路線の終始地点を集約させる事で乗り換えなどバス利用が充実し、地域交通が強化される。



概要

- ・バス停から施設へのアクセス改善 (★: 現在のバス停)
- ・ターミナル横に待ち合いカフェを設置 → バス待ち時間の利用・市民の憩いの場



バスターミナル設置による効果

- ①文化ゾーンへのアクセス向上
 - ・文化ゾーン内へのバスの乗り入れによる各施設へのアクセス向上
 - ・各バス会社の乗降場所を統一することによる分かりづらさの解消
 - ・各バス会社のダイヤ編成・路線整備などの連携が行いやすい
- ②当該地域のバス交通強化
 - ・駅～各大学～文化ゾーンを結ぶ新たなバス路線の整備
 - ・バスの待機所機能を持たせることによるバス交通の活性化

波及効果

- ・新美術館や図書館など既存施設の利用増大
- ・『文化ゾーン』を終点とするバス本数増加による宣伝効果
- ・3大学がバスで繋がり、交流を促すことで各大学が持つ知識やノウハウを共有できる場になり、学習やサークルの相乗効果につながる
- ・新たなバスサービスの提供
 - 観光地・名所への直通バス
 - 地域循環コミュニティバス

にぎわいの創出

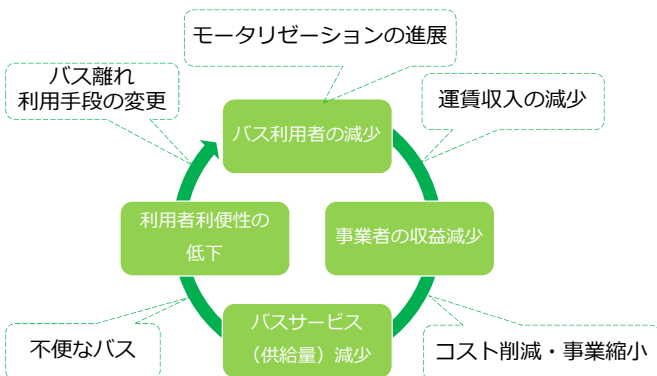
- ・地域住民にとってより身近な場所に
- ・文化・教育の中心地に
- ・地域住民の交通の中心地に
- ・商業施設の誘致へ
- ・滋賀県の新たなシンボルに

滋賀の魅力を結ぶ一直通バス活用ビジョン



- 検討ルート① 文化ゾーン～佐川美術館
⇒滋賀の芸術ライン
- 検討ルート② 文化ゾーン～琵琶湖博物館
⇒滋賀の文化ライン
- 検討ルート③ 文化ゾーン～三井アウトレットパーク滋賀竜王
⇒学生・家族向けライン

まとめと今後の展望



本研究では、文化ゾーン周辺の公共交通の在り方に着眼し、とりわけバス交通に問題意識を持ちバスターミナルの設置を提案した。これにより文化ゾーン内の既存施設の利用者の増加が見込めるだけでなく、地域の賑わいを創出する可能性を示した。今後本提案を進めていく中で、バスの運賃制度や複数に跨るバス事業者間の連携が大きな課題として挙げられた。上記課題に加え、左記の負のスパイラルを脱出し少子・高齢化に対応した公共交通を軸としたまちづくりを目指す。

